

日本原爆詩集

編者紹介

大原三八雄 おおはら さんぱちゆう 1905年生 広島文理大英文科卒、イギリス文学、とくにイギリス詩を専門とし、詩人クリスチナ・ロセッティの研究で学位を取得。和歌山医大・広島女子大等の教授を経て停年退職し、現在 広島工大教授、「広島通信」を主宰。著訳編書に『クリスチナ・ロセッティ 信仰詩集』（三一書店）、C・ロセッティ『シング・ソング』全訳（研究社）、C・ロセッティ『花と宝石』（研究社）、『広島詩集』『詩集ヒロシマ』、英訳原爆詩集“The Songs of Hiroshima”など

木下 順二 きねだ じゅんじ 1914年生 劇作家 主な作品に『山脈』『夕鶴』『オットーと呼ばれる日本人』、評論に『随想 シェイクスピア』がある

堀田 善衛 ほりた ぜんゑ 1918年生 作家 主な作品に『広場の孤独』『審判』『橋上幻像』、評論に『インドで考えたこと』がある

日本原爆詩集

1970年 6 月20日 第1刷発行

¥ 680

1970年 7 月30日 第6刷発行

編 者 大原三八雄・木下順二・堀田善衛

発行者 東京都千代田区西神田 1-2-15 石合ビル

崔 容 徳

印刷者 東京都新宿区東五軒町50 信毎書籍印刷

発行所 東京都千代田区西神田 1-2-15 石合ビル

株式会社 太平出版社©

振替東京99563 電話東京291-9744・9752, 294-7083

乱丁・落丁本はおとりかえいたします

日本原爆詩集



日本原爆詩集

大原三八雄・木下順二・堀田善衛 編
太平出版社

例 言

1 本詩集は、広島・長崎の被爆から四半世紀をむかえるにあたり、戦争と核兵器の惨禍の廃絶をねがって刊行される。

2 本詩集には、被爆いらい二五年間の原爆詩を、広島・長崎を中心に全国的な規模で収集したなかから、二一九編を精選して収録した。

3 主題・内容において当然本詩集に収められるべき詩でありながら、すでに小社刊行の他の詩集に収められているものについては、重複をさけて割愛することを原則とした。

4 本詩集は、『日本反戦詩集』『世界反戦詩集』および英訳原爆詩集など一連の詩集の姉妹企画として刊行されるものである。

5 とくに、英訳原爆詩集の第一集 “The Songs of Hiroshima” と、その第二集 “Apocalypse: The Man and Atom”

の二冊は、ひとりでも多くの海外の知友への推薦について読者諸

兄弟の協力を得ることができれば、幸いである。

6 用字用語は、最初に発表された形に拠ることを原則としたが、当用漢字・現代かなづかいに最小限の統一をはかった。

7 各詩編の末尾に、作品の最初の発表誌紙・号数・刊行年月をしめした。

8 地域語(方言)そのた、特殊な用語についても、各詩編の末尾に注記をくわえた。

9 本詩集の編集にあたり、大牟田稔・栗原貞子・杉本春生・田原伯・平岡敬・山田かん氏ら、そのた多くの方がたのご協力をえた。ここに記してふかく感謝の意を表します。

住所不明のために、作者またはご遺族の収録許可をえられないまま、本詩集におさめさせていただいた作品が数編ございます。お気づきの方は、編集部あてご一報くださいますようお願いいたします。

一九七〇年六月

太平出版社 編集部

例言	5
----	---

I 閃光

原爆	是永千秋	20
げんばく	松島愛子	20
原爆の日	奥本清志	20
自画像	神田周三	21
忌わしき思い出の日に	福田須磨子	21
水ヲ下サイ	原民喜	23
青い閃光	草間透	24
記 録	向井孝	24
八月六日	峠三吉	26
お父さん(二)	原田治	27
親子	槇博	27
ピカドン	横本弘美	28
貧乏になった	松田敬伸	28
うめぼし	池田ソメ	29
ヒロシマの空	林幸子	30
ヒロシマ	中村温	33
ニセアカシア	池辺よみこ	35

Ⅱ 魂よ鎮まれ

コレガ人間ナノデス……………	原	民喜	36
八月十一日・僕達の傷痕……………	三上	正雄	36
その夜……………	石垣	智里	38
生ましめんかな……………	栗原	貞子	39
原 爆……………	稲富	和子	39
炎ノ街……………	中村	温	40
冴えた眼から……………	深川	宗俊	42
人体模型……………	木下	和郎	43
皮膚のない裸群……………	山本	康夫	44
全員死亡……………	志水	清	45
ケロイドの花……………	井津元久	美夫	46
原爆娘の一人ごと……………	尾形	静子	47
お ば……………	大前	明子	48
記 録……………	土井	貞子	48
蔓びる影……………	津田	欣二	52
実 証……………	福谷	昭二	53
死者への問いかけ……………	大島	久徴	53
声なきものへ……………	山田	数子	55
十 年……………	山田	数子	55

重い声……………	坂村 真民	55
愛する兄は……………	宮間 暁美	56
八月六日……………	原田真智子	57
町の風景……………	清水享太郎	57
いのり……………	遠藤 春子	58
八月六日……………	鈴木 召平	59
祈　　る……………	栗田 素江	60
被爆慰霊碑文……………	たさか・かずお	61
父　　よ……………	荒木 博美	62
祈　　禱……………	田中喜四郎	63
春に想う……………	角本 明江	65
原爆資料館……………	田村 節子	67
夜の平和公園……………	田村 節子	67
原爆祭見物者……………	中浜 直明	68
ヒロシマ・わが幻……………	沢村 光博	69
ドームにて……………	丘　　高人	70
記　　憶……………	金沢 星子	71
みどりゆく……………	真壁 仁	71
ひとつの夏……………	下畠 準三	73

足音——平和行進	渡辺 邦秋	74
八 月	清水 高範	75
死者たちの夏	宮上 周正	76
焦土を拾う——長崎の或る未亡人に代って	町田トシ子	77
道	小倉 春枝	78
花崗岩	津田 定雄	79
黙 禱	倉知 和明	80
黒い静脈——ひろしま抒情その十二	寺田 弘	81
平和公園	野村百合枝	82
燈籠ながし	小園 愛子	82
川の四季	福井 嘉和	84
深海魚のように	近藤 東	85
八月六日の砂	米田 栄作	86
残酷な夏の終りに——被爆のKに	長島 三芳	87
ヒロシマの午後——一九六四年八月七日	タマキ・ケンジ	89
言ってくださいどうか	大岡 信	95
小さなひかり——平和詩集のために	三好豊一郎	97
よか 日	倉田千恵子	98
骨片のような雪がふる	津田 欣二	99

再建天主堂	田中礼次郎	100
十三の原点	小堺 吉光	101
明日と今日の間で——妹に	喜連 敏生	103
花々と聖歌隊	深江 福吉	105
写真の中の友	峽 草夫	105
のいばらの道は	佐藤 祝子	107
永遠のみどり	原 民喜	108
原民喜詩碑一周年	熊平 武二	108
不滅の光り	吉田万太郎	109
レクイエム——浜井信三氏の霊に捧げる	大原三八雄	110
悲 歌	末田 重幸	111
さつまいもの歌	水野 潤一	113
慟 哭	山田 数子	115
失ったものに	山田 数子	116
風	山田 数子	116
41年1月5日	名越 操	116
心に夜が水のようにひろがるとき	寒川鮒太郎	117
夏に逝った友に	中原 宏子	117
オ ゲ	山本 衛	118

Ⅲ 広島の河 浦上の空

ヒロシマはわがもの……………	風山 瑕生	119
私の故郷は長崎です——原爆十周年の追憶……………	風木雲太郎	122
眼……………	峠 三吉	123
マスク……………	生田 均	124
なぜ？……………	北浜 迪	125
無 題……………	岡本 陽子	126
ぼくのあたま……………	河合 賢治	127
先生のやけど……………	かくたに のぶこ	127
ヨシちゃん……………	四国 五郎	128
広 島……………	崎本 正	128
無 題……………	河本 一郎	129
兄の死——『暖光二十年』から……………	石田 明	130
影……………	石田 明	132
初毛が生えた……………	石田 明	133
不 在……………	轟 龍造	134
被爆者……………	西村 豊作	136
芳野あわれ……………	伊福 重一	137
亀 裂……………	近藤 栄治	138
傷痕去らぬ君と共に……………	中村 新七	139

ケロイドは永久に癒えず……………	島 明子	142
二十年のピリオッド……………	国松利伊子	142
石……………	山田 かん	143
炎……………	副島井智男	145
灼けた眼……………	島田 勇	146
僕は死ねない……………	徳納 晃一	147
怖 れ……………	増岡 敏和	148
作文の時間……………	鷹村美代子	149
毒 蛾……………	河上鎌太郎	150
胎内被爆……………	浅尾 忠男	151
公約の文字が追ってくる……………	山本 節子	153
聞えなくなったぼくらの聴覚……………	秋吉久紀夫	154
原 ばく……………	西山 洋子	155
戦 争……………	松井 好子	155
ひとりごと……………	福田須磨子	155
泥 濘……………	松本 裕利	156
明日への歌……………	山村 好一	157
基 地……………	金城美津子	158
同じ空の下に——ルポルタージュ詩「広島」……………	木下 夕爾	159

あの人……………	名越 操	163
ある形骸……………	島 陽二	164
地点通過……………	山田 かん	165
ヒロシマの顔……………	森下 弘	166
誰が懐古などするか……………	西原 茂	167
内に向って……………	岩阪 恵子	168
その瞳は澄んでいた……………	新井 敏彦	169
語りつたえよ……………	青木 渡	171
黒い鳥……………	小梨 守夫	173
平和公園／笑い……………	松尾 静明	173
今年も八月が……………	堀 ひろじ	175
ひもじい季節……………	島田 輝子	176
被爆後十六年……………	芦沢 敏	177
ひかりの列に……………	秋山 基夫	178
錫 杖……………	小林 正	179
原爆十周年に……………	小野十三郎	180
俺は俺に署名はしない……………	入江 昭三	181
留 守……………	中島 百万	182
原子野……………	山口 宏	183

映画「ひろしま」を見て……………	平田 耕三	183
沈む……………	中里 喜昭	184
原爆……………	福吉 高子	184
はがゆい……………	正田 篠枝	185
とまどい——弔慰金によせて……………	望月 久	185
観光バス……………	藤井 ゆり	186
大きな穴……………	冬木 信子	187
パントマイム……………	戎 栄一	188
無言の証人……………	井上 義男	188
ヒロシマの偶然——『詩集ヒロシマ』を読んで……………	長友 隆彦	189
死人のリスト……………	浜野チホ子	190
孤児写真集……………	向井 孝	192
今日の空が眼に痛い……………	小林 正	193
原爆……………	戸井田 茂	194
戦争放棄……………	堀井 茂	195
げんしばくだん……………	坂本はつみ	196
げんしばくだん……………	豊島 紘一	196
思いちがい……………	正田 篠枝	196
廃墟はまだ冷えていない——広島訪問……………	永瀬 清子	197